# 自施設の防災訓練　　受け入れ側施設としての災害準備

社会福祉法人　聖隷福祉事業団　聖隷佐倉市民病院　　阿部　拓馬

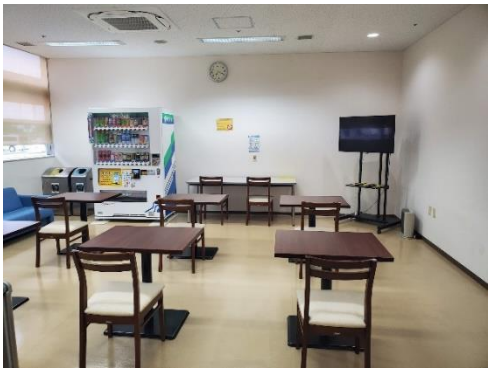
聖隷佐倉市民病院透析センターは、ワンフロアー101 床を有し、入院患者や外来患者の維持血液透析療法や各種アフェレーシス療法を実施している。

当院は積極的に災害時支援も行っており、過去には、2011 年東日本大震災時に東北地方の透析患者 13 名、2019 年千葉県を直撃した台風 15 号および台風 19 号被災では、延べ 148 名の透析患者受け入れを実施した。特に 2019 年の台風 15 号では、自施設の維持透析患者の被災、他院からの多数の受け入れを経験し、透析患者と医療スタッフ双方の生活を含めた支援対策が、被災時の透析医療に欠かせない事だと再認識した。

台風 15 号では、瞬時停電等若干の影響はあったものの透析治療は問題なく実施可能であった。しかし地元地域の被災であり、患者やスタッフの中には病院への移動困難者や自宅を被災しライフラインが停止した人もおり、状況に応じて支援を行った。

家族支援のもと来院する患者や他院受け入れ患者など、平時より来院人数が増える事が予想されたので、待合を透析センター談話室透析室に近隣するアンギオ室前ロビーに設置し対応した。

【休憩・待合スペース】



透析センター談話室

アンギオ室前ロビー

帰宅困難者や自宅が被災した方の宿泊場所として、空き病室の確保や 6F ホールに簡易型ベッドを配置した。幸い宿泊場所は空き病室でほぼ対応可能であったため、6F ホールは 2 名のみの使用にとどまった。6F ホールの宿泊については安全管理体制やプライバシーの確保方法等、再度検討を要する項目の洗い出しが出来た。

【夜；宿泊スペース・昼；保育スペース】

6F ホール

自宅のライフラインが断絶した患者やスタッフには、病棟シャワー室の利用や携帯電話等充電環境を提供し多くの利用と感謝の声を頂いた。

また保育園の休園が相次いだことから、6F ホールを昼間は保育スペースとして使用し、スタッフが安心して勤務できる環境を整えた。

患者およびスタッフの不安要素を出来る限り取り除き平時に近似した状態に整備することは、安定した治療を継続する上で必要だと思われる。如何なる事態でも安定した治療が提供できるよう、ハード・ソフトの整備に継続して取り組んでいく必要がある。

掲載日：2023 年 11 月 28 日